

## 中間貯蔵施設見学会

平成 31 年 2 月 27 日、ふたば出張所のスタッフ 3 名が「第一回中間貯蔵施設見学会」に参加してまいりました。今回は、そのときの様子をご紹介します。

中間貯蔵施設とは、福島第一原子力発電所を取り囲む形で、大熊町と双葉町に整備されている施設であり、除染にともない発生した除染土壌や廃棄物等を貯蔵するところです。

このたびの見学会は、中間貯蔵工事情報センターが実施したものであり、参加スタッフはマイクロバスに乗って、中間貯蔵施設区域内(大熊工区)の工事の進捗状況を見学してまいりました。



＊ 大震災当時の状態で残る集会所の様子です。



＊ 区域内の至るところで施設の整備が進んでいます。



＊ 一日に約 1,500 台のトラックが、中間貯蔵施設へフレコンバックを運び込んでいるそうです。



中間貯蔵施設区域内は、整備が進められている反面、強制避難を余儀なくされた方々の家屋がところどころに散見されました。今は、変わり果てた風景となりましたが、原発事故前は、ここにも確かに血の通った温かみのある家庭が存在したのだと肌で感じました。参加スタッフは、この地で生活されていた方々の心中に思いを馳せて、胸が苦しくなりました。

以前、自宅が中間貯蔵施設区域内に入ることが判明した住民さんから話を聴かせていただいたことがありました。その方の言葉がふっと思い出されました。「6号線を境に、自宅が西にあるのか、あるいは東にあるのかで私たちは区切られてしまうんだ。うちは東にある。つまり、中間貯蔵施設区域内だ。もうどうしようもない。」と。受け入れ難い現実を突きつけられて、絶望感に苛まれながらも、今の生活に目を向けて、生活していかなければならない苦悩は、計り知れないものだと思います。

このたびの見学会は、支援者の立場にある私たちにとって大変有意義な機会となりました。見学会を実施してくださった中間貯蔵工事情報センターに感謝を申し上げます。